

2022年度冬期対策に関する申し入れ Part③

中央地区

第1項 南秋田センター構内で雪を抱き込んで起動できない場合、JARSでも除雪対応できるように協議すること。

【回答及び見解】

引き続きグループ会社と一体となり対応していくこととなる。

- 回答の通り、JARSでも対応は可能。
- 本体の乗務員の出区の場合は本体に発動する。初動で対応するのは本体になる。それでも対応できなければ、JARSの作業責任者に伝えて総体で対応してきている。
- 引き続きグループ会社と一体となって対応していくことに変わりはない。

県北地区

第1項 昨冬は大館駅のホーム屋根を撤去したため東能代統括センターで除雪作業を行っていたが、今冬の考えを明らかにすること。

【回答及び見解】

ホーム除雪については、部外能力を活用し実施していく考えである。

- 大館駅の1番線はだいぶ狭くなっている。**日中帯はCSP1名を配置**する。
- 排雪に関しては建築側の手配で対応。資材ヤードを解放し、雪を集める。
- 雪が踏み固められ、**斜めになりホーム上から転落しそうになることはない**と考える。
- 2、3番線の除雪もCSPが対応する。
- 雪の降り方によっては東能代統括センターから対応していくこともある。

第2項 深浦駅構内の指定通路の除雪体制について、検証交渉以降の考えを明らかにすること。

【回答及び見解】

引き続き、降積雪状況を勘案し対応していくこととなる。

- 毎日の除雪要員の確保はできない。
- タイムリーに対応できないのが課題であった。**ネットワークカメラを構内に設置し、24時間確認できるようになった。**
- 運輸部企画課で映像を確認している。
- 除雪はJARS東能代営業所に依頼している。夜に除雪依頼をして朝に行けるかといえ、行けない場合もある。
- 運企からの要請の場合もあれば、東能代統括センターとの調整で対応してもらうこともある。
- ネットワークカメラの設置拡大は今のところ考えてはいない。

津軽地区

第1項 五能線内の異常時について、輸送指令から弘前営業統括センター（五所川原駅）に連絡があるが、夜間は一名で対応しているため、同営業統括センター（弘前駅）に連絡すること。

【回答及び見解】

情報提供については、引き続き関係箇所と連携し行なっていく考えである。

- 指令に確認した。どちらか一方だけに連絡をすることはない。**弘前営業統括センター総体で対応してほしい。**

【組合】五所川原駅の泊まりは一般社員。指揮命令系統として、副長が泊まっている弘前駅に連絡した方がスムーズではないか。**営業統括センターになったが、それぞれの駅で完結している。**

【会社】人の手配が必要なケースは、五所川原駅に連絡するルートが最も早い。

• 指令としては正しい情報を提供することに変わりはない。連絡体制については箇所を決めたことであり、箇所に対応していく。

第2項 弘前営業統括センターでは夜間集中除雪がある場合、立ち会いできる社員が減少することが見込まれるため今冬において技術継承を行うこと。

【回答及び見解】

必要な教育は行なっていく考えである。

- 今冬に関しては管理者から要請する。一般社員を要請する余地はあるが、教育は冬にしかできない。勤務操配も含めての判断。

【組合】来年退職する方を**その場しのぎで今冬で要請しても、来年以降に繋がっていない！**

必要な教育は行うとの回答だが、教育するだけの要員がいない！